

授業科目 臨床化学 I

【担当教員名】 土屋 康雄		対象学年	2	対象学科	臨床
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		○	
【概要・一般目標：GI0】 各種疾患の診断や予後の判定などに必要な情報を提供するために、生体試料中に含まれる成分の測定方法や結果の解釈を理解し、生物化学的分析の理論と実際を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1 臨床化学分析の目的と意義を簡単に説明する。 2 精度管理の方法やその評価について説明する。 3 臨床化学検査で使用されている分析方法を簡単に説明する。 4 臨床化学検査における基本的な項目の分析方法を説明する。 5 検査値の臨床的意義を説明する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	臨床化学分析の特徴			1	講義
2	臨床化学分析における精度管理			2	講義
3	臨床化学分析の基礎と定量法			3	講義
4	電解質：ナトリウム、カリウム、クロライド			4-5	講義
5	電解質：カルシウム、無機リン			4-5	講義
6	糖質：グルコース			4-5	講義
7	糖質：グリコヘモグロビンほか			4-5	講義
8	脂質：リポ蛋白			4-5	講義
9	脂質：コレステロール			4-5	講義
10	脂質：中性脂肪、リン脂質			4-5	講義
11	脂質：その他の脂質成分			4-5	講義
12	蛋白質：総蛋白、アルブミン			4-5	講義
13	蛋白質：血清膠質反応、血清蛋白分画ほか			4-5	講義
14	非蛋白性窒素：尿素窒素、クレアチニン			4-5	講義
15	非蛋白性窒素：尿酸、ビリルビン			4-5	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		臨床化学	前川真人 編集	医学書院	2012・4,500円＋税
参考書		異常値の出るメカニズム	河合 忠ほか	医学書院	2013・6,000円＋税
その他の資料					
【評価方法】 小テスト (20%)、定期試験 (80%)			【履修上の留意点】 疾病と検査値の関わりを学ぶので項目毎に異常値の出るメカニズムを予習して臨むこと。		